

「観光分野におけるロシアと日本の協力」

ナデジュダ・シチェニコワ先生

(ウラル・フランク経済サービス大学観光学科長・教授)

金岡理事長、田中学長、親愛なる皆様、本日はお招きいただき、誠にありがとうございます。私どもの大学のラザレフ学長から、皆様によろしくとのご挨拶を申しあげて、私の講演に入らせていただきます。

本日のテーマは誠に適切なもので、観光というのはこれからの北東アジア発展の非常に大きな鍵を握っているものであると確信しております。

ロシアの沿海地方は、ロシアおよび各国の経済発展とともに観光客が頻繁に出入りする観光ゾーンとして、戦略的に重要な地位を年々築いています。沿海地方の観光発展を促進する主たる要因は、沿海地方が有する地勢学的な優位性にあります。ロシアはアジア太平洋地域への進出を目指して、1998年かAPEC加盟し、戦略的に重要なこの地域での地歩を固めています。政治、文化、観光など、各方面で、ロシアはこの地域の諸国との関係を発展させていますが、なかでも経済先進国の日本を重視しています。



QUESTIONS FOR DISCUSSION

1. Dynamics of cooperation between Russia (Primorsky region) and Japan.
2. Priority lines of cooperation.
3. Strategy.

The goal is to elaborate strategy and program of tourism cooperation development.

先進国の日本を重視していると申しましたが、その理由は、地理的に日本がロシアから一番近い隣国であるという点にあります。このこと（ロシアと日本の観光関係の発展に肯定的な影響を及ぼしていますが、これは近い国を観光の訪問先に選ぶという日本人の特性と関係があります。また、両国関係の目覚ましい発展にも良好な影響を与えています。

沿海地方政府の国際協力観光局は、ロシア・日本両国間の観光ビジネスの発展、日本と沿海地方の観光客の増減、この二つの動きを注意深く見守っています。この二つの動向は、両国間の関係水準を示すだけでなく、観光インフラの状況、あるいはこの地域の経済状況全般をも示しているからです。

日本とロシアは貿易・経済問題に関するロシア・日本政府間委員会の設立に合意し、共同委員長として、ロシア側は副首相が、日本側は外相が就任しました。両国経済協力面での最も重要な出来事は、2003年プーチン会談、および2008年のメドヴェージェフ大統領の洞爺湖サミット。この二つの機会、経済分野における

富山第一銀行 富山信用金庫 コトホ産学官富山支部

後援 / 富山県 富山III 富山県観光連盟 富山市観光協会 富山商工会議所

共催 北 B * III H Ti

主催 富山 II III 美学

学校法人 富山国際学園

報 47 暁

~^K現状と展望~

北東アジア諸国の観光

第3回 国際交流シンポジウム

● 日程 ●

12:00 ～ 受 付

13:00 開会の挨拶 *mmmx miumw*[^]園理事長 金岡 祐一

13:10 シンポジウムへの期待 富山国際大学学長 田中 忠治

13:25 基調報告Ⅰ *m m*「日韓自治体の国際交流と観光活性化」
梁 起豪(ヤン ギホ)先生 (聖公会大学校日本学科教授)13:55 基調報告Ⅱ 中 国「中国にとって訪日観光はどんな魅力がありますか」
高 振鐸(ガオ ツェンドウオ)先生 (大連半島翻譯培訓学校理事長)14:25 基調報告Ⅲ ロシア「観光分野におけるロシアと日本の協力」
ナデジュダ・シチェニコワ先生
(ウラジオストク経済サービス大学観光学科長・教授)

休 憩 (105)

15:05 パネル・ディスカッション

パネリスト 聖公会大学校日本学科教授 梁 起豪

大連半島翻譯培訓学校理事長 高 振鐸

ウラジオストク経済サービス大学観光学科長・教授 ナデジュダ・シチェニコワ

東北学院大学教養学部地域構想学科教授 柳井 雅也

(財)富山県新世紀産業機構 環日本海経済交流センター
貿易・投資アドバイザー 野村 允

コーディネーター 富山国際大学現代社会学部教授 長尾 治明

16:25 閉会の挨拶 富山国際学園学事顧問 中島 恭一
富山国際大学副学長